

女の領域、男の領域

Women's Domain, Men's Domain

ブライアン・ディン

Bryan Ding

82-372: Advanced Japanese II

この作文では、女の領域と男の領域について述べたいと思う。日本では、体面や性的役割分担を意識しない男性が急速に増えている。彼らはジェンダーを気にしない。家事・育児について外で話すことも嫌がらない。例えば、会社員の男性たちは益々紙おむつの吸収の良さが分かるようになった。妻と一緒に育児をしているうちに、情報収集が進んでいるようだ。もう一つの例は、育児休暇をとる父親たちは自分の育児日記が新聞の家庭欄にも掲載されるようになったことだ。

かつては「男の領域」とされていた機械や車に対する意識にも変化が見られる。車を買う時、車種を選択は男として重要な見せ場だったが、今は結婚しても運転できない夫がいるので、その場合は妻に任せる。男性がこんなふうに変ったのは、バブル経済が終わったあたりからだ。バブル期、「デートの時お金を払うのは男性の責任」という考え方があったが、今の20代の男性は、別に彼女のために「高価なプレゼントを買わなくてもいいし、バイトまでして彼女をいいレストランに連れて行く必要はない」と思っているようだ。

アメリカでは、紙おむつの話をしたり、育児休暇を取ったりする男性も増えている。アメリカ人はよく、「仕事より、育児の方が先だ」という考え方がるので、育児を大

切にしている男性が多分日本の男性より多い。一方、車やパソコンは、夫婦で選ぶ。やっぱりアメリカ人にとって、車やパソコンは決められるべきだ。

日本人男性が育児休暇をとったりするのはいいことだ。子供との関係はすごく重要なので、なるべく早くいい関係を作るべきだと思う。私にとって、男らしさとは、自分の家族を支えられて頼もしい男性のことだと思う。女らしさとは、自分の夫を支えられる女性のことだと思う。こうすると、夫は家族全体の問題を解決できるし、妻は夫と一緒にいい子供関係を作られる。結論として、育児の責任はもう女性だけの責任ではない。子供とのいい関係を作るために、男性も育児をするべきだと思う。